

小学校に期待される キャリア教育とは？

小学校では、平成三十二(二〇二〇)年度から新学習指導要領に移行します。そこでは、小学校からのキャリア教育の実践に大きな期待が寄せられています。教科を含む教育課程全体を通じたキャリア教育の重要性は、一層高まっているのです。

強く求められる 「自らの人生を拓いていく力」

本年八月二十六日、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会では、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」を公表しました。約一年九か月に及ぶ審議の結果を取りまとめたものと言えます。

まず特筆すべきは、「審議のまとめ」が冒頭項目として「二〇三〇年の社会と子どもたちの未来」を設け、次のように述べていることです。「学校教育がその強みを発揮し、一人一人の可能性を引き出して豊かな人生を実現し、個々のキャリア形成を促し、社会の活力につなげていくことが、社会的な

要請ともなっている。教育界には、

変化が激しく将来の予測が困難な時代にあってこそ、子供たちが自信を持って自分の人生を切り拓き、よりよい社会を創り出していくことができるよう、必要な力を確実に育んでいくことが求められている。(P.9)」まさに、キャリア教育の一層の充実に対して強い期待がかけられていることがわかります。

キャリア教育への 具体的な期待

では、今後の小学校教育におけるキャリア教育に対して、具体的に期待されることは何でしょうか。順不同となりますが「審議のま

- 安全な生活の実現(仮)
- (3)一人一人のキャリア形成と実現(仮)

これまで、小学校における学級活動の内容は、「(1)学級や学校の生活づくり」「(2)日常生活や学習への適応及び健康安全」のみでしたが、新たに「(3)一人一人のキャリア形成と実現(仮)」が導入され、小学校からの系統的・体系的なキャリア教育の中核となるのです。

●教育課程全体で推進する キャリア教育

もちろん、キャリア教育は中核としての学級活動のみで実践されるべきものではありません。「審議のまとめ」の次の指摘を見落とすべきではありません。

「重要な指摘を抽出してみます。め」から重要な指摘を抽出してみます。

●中核としての学級活動

はじめに注目しなくてはならないのは、特別活動、とりわけ学級活動がキャリア教育の「中核」として次のように位置付けられた点です。

「小・中・高等学校を見通した、かつ、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の充実を図るため、キャリア教育の中核となる特別活動について、その役割を一層明確にする観点から、小・中・高等学校を通

本誌「つ・な・ぐ」創刊号から掲載されてきたような、教科での学びを通してキャリア教育の実践が、今後ますます求められることは疑いありません。「世の中と結び付いた授業等を通じて子供たちにこれからの人生を前向きに考えさせること(中略)が、これからの学びの鍵となる(P.16)」と「審議のまとめ」が述べていることを、是非確認しておきたいものです。

●「キャリア・パスポート(仮称)」の導入

最後に、次期学習指導要領で導入される予定の「キャリア・パスポート(仮称)」について、その概要をまとめておきます。

「キャリア・パスポート(仮称)」とは、「小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関する活動について、学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材(P.313)」のことを意味します。この詳細については、今後、研究協力者会議において検討が加えられる予定ですが、「特別活動を中心として各教科等と往還しながら、主体的な学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成に生かすために活用」されるものとして構想



藤田 晃之
筑波大学人間系教授
前文部科学省生徒指導調査官

じて、学級活動・ホームルーム活動に「一人一人のキャリア形成と実現(仮称)」を位置付けるとともに、「キャリア・パスポート(仮称)」の活用を図ることを検討する。(P.52)」「キャリア・パスポート(仮称)」については後述しますが、まずは、小・中・高等学校を一貫して、学級活動・ホームルーム活動が次の構成となる点がポイントとなります(P.31)。

- (1)学級・ホームルームや学校における集団生活の創造、参画(仮)
- (2)一人一人の適応や成長及び健康

されていることは重要なポイントとなるでしょう。

特別活動(学級活動)と、各教科等での学びの「往還」を軸として、子どもたち自らがそれらの系統的な学びを記録し、振り返ること、そして先生方がそのプロセスに対話的に関わることで、子供たち一人一人が自己理解を深めていくことが求められているわけです。

先生方による伸びやかな 創意工夫こそが最重要

「審議のまとめ」は次期学習指導要領で育成する資質・能力について「三つの柱」を示しています。従来の「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」に加えて、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする)『学びに向かう力・人間性等』の涵養」が柱の一つとされたことは極めて重要です(P.28)。

「授業での学びをみんなの人生や社会に生かしていく」というメッセージを伴った創意ある授業実践が一層求められると言えるでしょう。本誌「つ・な・ぐ」がそのお役に立つことを願っています。

